

■犯人はカビ？

アトピー性皮膚炎を持っている患者さんにとってこれからはつらい汗の季節になります。

肘や膝、首、股間など大量に汗をかくところのカユミは、カビが原因であることが突き止められました。

皮膚に普通に存在する『マラセチア菌』というカビの一種が分泌するタンパク質が汗に溶け、皮膚にしみ込むと『汗アレルギー』を引き起こします。

このメカニズムを発見した広島大の秀教授グループは、1999年以降、4000人分の汗約600リットルを分析し、ようやくタンパク質を特定しました。

抗真菌剤を処方して長年の苦痛から解放された患者さんのお礼の言葉が心に響きます。秀教授に感謝、感謝。

平成27年6月分

NAVI通信原稿

はらクリニック 原 徹